

第555号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2015年6月16日
発行責任者 喬木村公民館長 徳長 美穂
編集責任者 公民館編集部 志田 久志
印刷 龍共印刷株式会社

楽遊塾第一講座
飯山めぐり開催

たおしいちゃん、おばあちゃん、子どもたちの姿が

毎年耳にする異常気象という言葉が日常の様になり、桜の花の開花と同時に、雨の肌寒い日が続く、四月半ば頃から夏を思わせるような暑い日となり、花桃、ふじ、つつじと慌ただしく咲き乱れ、お花見気分も味わう間もなく春が過ぎてしまいました。

公民館教養部では平成二十七年楽遊塾第一講座として「飯山めぐり」を実施しました。スタートは「高橋まゆみ人形館」見学で、館内には高橋まゆみさんが田舎暮らしで出会った人々をモチーフに独自の作風で作った人形が展示されています。

公民館教養部では平成二十七年楽遊塾第一講座として「飯山めぐり」を実施しました。スタートは「高橋まゆみ人形館」見学で、館内には高橋まゆみさんが田舎暮らしで出会った人々をモチーフに独自の作風で作った人形が展示されています。



菜の花公園にて

飯山の言葉、お寺巡り、宗の再興者、慧端禅師、(正受老人)の庵で県史

散策の途中飯山市伝統産業会館で休憩し、仏壇等に使用されている物と同じ金箔を使っているという、壁天井、ドアが金箔で出来ている珍しいトイレも見学できました。この日は風が冷たい日でも、お茶がとて温かく心と身体がほっこりしました。

ご参加いただいた皆様には、早朝より終日お世話になりました。皆様のご協力により楽しい旅が出来ましたこと、改めてお礼申し上げます。次回以降も多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。(教養部)

学遊館広場
「勾玉づくり」体験会実施

「学」の語源は「まねぶ」といいます。人のやることをまねをするということ。人間の歴史を見ても、確かに先人の積み上げた知識や技術を受け継ぎ発展させてきた「学び」が、高度な現代の文化文明を作り上げてきました。

去る五月十六日(土)には、村の歴史民俗資料館と子ども学遊館の共催により、小学生とその保護者を対象に「世界に一つ」の勾玉づくりに挑戦しました。当日は当初募集人員を大幅に上回る七十七人の皆さんに参加していただきました。

学遊館を出発し、最初に資料館に寄って見学のあと、勾玉の歴史やその時代の説明をお聞きしました。勾玉が古代人の信仰や装飾のために作られたものであること、又その形が胎児に似ていることから安産を祈るお守りとして作られたのではとお話を聞きました。

当初は資料館にて勾玉づくりも実施の予定でしたが、多数の福祉センターの多目的ホールに変更移動しての体験実施になりました。勾玉づくり講師には上郷考古博物館長の市澤先生にお願いし、材料の「滑石」と道具になる紙やスリ等は調達していただきました。先生の世界に「二つのマイ勾玉」を一所懸命作るという言葉に励まされ、材料確認と作業手順を聞き、一斉に作り始めました。



滑石は軟らかく、子どもの力でも充分削ることが出来る、一時間半程で仕上げの段階になり、バケツに張った水の中で魔法の紙ヤスリで研げばすべすべの勾玉完成となりました。人は本来モノを作ることに熱心であり、古代人が作った土器や矢尻を見ても真に芸術作品であつてほしいと思います。

子どもは生活の基本的なことは親や家族から学び、知識は学校で先生に学び、子供同士の遊びの中でけんかの仕方や転び方や友達との接し方を学びます。教えてもらうからこそ親や家族や先生や友達への尊敬の念も自然に培われるものなのですから、真似されていいだけのものをいつも持つて、良いお手本であつてほしいと思います。

涼鳩十ものがたり 34

『少年』掲載作品第七号

涼鳩十頭彰会 久保田 毅

『野獣の島』 昭和二十八年十月号

「屋久島は、太平洋上にぽっかり浮かんでいるはなれ島です。島には、一年中バナナも実っているし、パイナップルの畑もあります」と始まりです。

「なにか、強敵におそわれて逃げているといったような有様です。先頭にいたひとときわ大きいサルが、木ガールと大きな叫び声をあげました。サルもはびたつたかたをひつつけてしまいました。身動きするものは一匹もありません。」

「サルの群れは、かくれ家から飛び出してきて枝の上に立ち上がり、大ワシに向かって、木ガール、木ガールと叫びかけました。林の中がラッパになったかと思われような、大きな声となつてひびくのでした。それは、『森のものは森の』

「五・六メートルのところまで近づいたとき、死んだように見えていた大ワシは、ぐつと頭をもたげて、じいさんをにらみつけました。『そしておそいかかっています。じいさんはうまくからだをかわして、傷ついた大ワシの首ねっこに

「どうだい。あの大ワシのけつべたにあたつておてんとさうまの美しいことは、金粉をたっぶりとぬりつけたみたいだわい」太郎はだまってこっくりうなずきながら、歩み去ってゆく大きなシカを見つめていました。

今日の小さな職人たちが滑石の白い粉にまみれながら一所懸命作り出した作品はまさに「世界に一つ」の勾玉であり、作る喜びを感じることで貴重な体験が出来ました。マイ勾玉を誇らしげに首から下げ、きつと家族に自慢したことでしょう。

魅力ある教材と、温かな人間関係と、その子の多様性が発揮できるような場を整えれば、周りから強制されなくても子供達は自ら学び始めるはず。最後に公民館活動は生涯学習の拠点ですから、大人の皆さんにも人間関係も含めた「学び」を楽しんでほしいと思います。



「枝の上に小さくなつていたサルの群れが、叫び声をたてながら、なだれをうって大ワシにおそいかかってきました。」

「この物語でも、輝き、書かれています。小シカを救うために戦った大ワシやサルの群れへの賞賛でしょう。『金色の足跡』『金色の川』『嵐を越えて』などにも金色の輝きが書かれています。ほかに、同じような輝きを書かれています。作品を探してみても楽しそうですね。」

「学」の語源は「まねぶ」といいます。人のやることをまねをするということ。人間の歴史を見ても、確かに先人の積み上げた知識や技術を受け継ぎ発展させてきた「学び」が、高度な現代の文化文明を作り上げてきました。

「学」の語源は「まねぶ」といいます。人のやることをまねをするということ。人間の歴史を見ても、確かに先人の積み上げた知識や技術を受け継ぎ発展させてきた「学び」が、高度な現代の文化文明を作り上げてきました。

「ここに源太じいさんというシカ狩りの名人が住んでいます。きょうも孫の太郎と三匹とともに山奥に入り込んでいます。シカのふんと足あとを見つけてます。足あとから大きなおすのシカだとわかり、にっこりします。

「なにか、強敵におそわれて逃げているといったような有様です。先頭にいたひとときわ大きいサルが、木ガールと大きな叫び声をあげました。サルもはびたつたかたをひつつけてしまいました。身動きするものは一匹もありません。」

「サルの群れは、かくれ家から飛び出してきて枝の上に立ち上がり、大ワシに向かって、木ガール、木ガールと叫びかけました。林の中がラッパになったかと思われような、大きな声となつてひびくのでした。それは、『森のものは森の』

「五・六メートルのところまで近づいたとき、死んだように見えていた大ワシは、ぐつと頭をもたげて、じいさんをにらみつけました。『そしておそいかかっています。じいさんはうまくからだをかわして、傷ついた大ワシの首ねっこに

「この物語でも、輝き、書かれています。小シカを救うために戦った大ワシやサルの群れへの賞賛でしょう。『金色の足跡』『金色の川』『嵐を越えて』などにも金色の輝きが書かれています。ほかに、同じような輝きを書かれています。作品を探してみても楽しそうですね。」

「学」の語源は「まねぶ」といいます。人のやることをまねをするということ。人間の歴史を見ても、確かに先人の積み上げた知識や技術を受け継ぎ発展させてきた「学び」が、高度な現代の文化文明を作り上げてきました。

「学」の語源は「まねぶ」といいます。人のやることをまねをするということ。人間の歴史を見ても、確かに先人の積み上げた知識や技術を受け継ぎ発展させてきた「学び」が、高度な現代の文化文明を作り上げてきました。

「学」の語源は「まねぶ」といいます。人のやることをまねをするということ。人間の歴史を見ても、確かに先人の積み上げた知識や技術を受け継ぎ発展させてきた「学び」が、高度な現代の文化文明を作り上げてきました。

おぼろ月雲やはらかに山覆ふ
 文添へて新茶のかおり届きたり 田中 君子
 真青なる五月の鷹の風に乗り
 初燕山家の軒に華やげり 村山たか子
 空襲の惨禍聞き初む菜種梅雨
 朋友の笑顔見送る柿若葉 松葉 孝子

たかぎ俳句クラブ
皋月旬会

里山の芽吹き色増す空の青
 道なりに豊かさ溢る春の川 小林 カツ
 雛の家に咲き競ふ如梅と桃
 入学のカバンに散るや庭ざくら 秦 恭子
 子供の大家族と困む鯛造り
 雨に舞ふ大人勝りの子供獅子 原 美恵
 遠蛙とぎれとぎれの夢路かな
 初蝶とたわむれて待つ曾孫かな 砂場 文子
 麦踏みも銃後の務め吾が青春
 花苗を付けしバイクに又逢ひぬ 松尾万里子
 目を閉ちて牛の反響風薫る
 恋と云ふ語源たのしきつくしんぼ 吉川てる子
 娘が学び卒へしスタンド身ほとりに
 卒へし母校終りし学び桜散る 本山 栄信

14年連続 金メダル獲得!!
チャレンジデー2015



子育てひろば(芝グラウンド)

五月二十七日(水)午前六時、くりんネットによる市瀬村長の呼びかけでチャレンジデー(一〇一五がスタートし、村内各所で様々な取り組みが行われました。今年で十四回目の参加となる当村は、今回が五回目の参加となる秋田県井川町と対戦しました。体育協会、分館を中心に、多くの団体で組織された実行委員会ではこの日に備えて、「この日をきつかけに体を動かしまいか!」をテーマに、目標参加率を七十%以上に設定して、四月から準備を進めてきました。当日は天候にも恵まれ、数多くのイベントを実施することができました。結果は、当村全体で四、二三人の方にご参加いただき、参加率は六三・八%、昨年より参加率を落としてしまいましたが、

残念ながら勝負には負けてしまいました。が、チャレンジデーの本来の目的であるスポーツを通じた健康づくりや、地域・職場の仲間づくり等村の活性化につながったのではないかと思います。実行委員の皆さまには準備段階から当日のイベント運営、集計に至るまで、ご協力いただきありがとうございました。(チャレンジデー事務局)



弓道部(喬木中学校弓道場)

分館対抗ペタンク大会結果表

	優勝		準優勝	
Aブロック	北	C	氏 乗	D
Bブロック	氏 乗	B	伊久間	D
Cブロック	田上川	A	帰牛原	A
Dブロック	両 平	A	氏 乗	C
Eブロック	両 平	B	南	C
Fブロック	氏 乗	A	上	平

**平成二十七年年度
分館対抗ペタンク大会**

五月二十四日(日)に喬木第一小学校グラウンドを会場に分館対抗ペタンク大会が行われました。今年も、過去最多の十二分館三十六チームが参加し、六つのブロックに分かれて熱戦が繰り広げられました。昨年度までは、野球ペタンク大会として実施してき

ましたが、野球に参加できる分館が減ってしまったので今年からペタンクにしほって実施しました。天候にも恵まれ初めての方も含めて老若男女が混合のチームで試合を楽しむことができました。結果は次のとおりです。



優勝 北分館Cチーム



優勝 両平分館Aチーム・Bチーム



優勝 田上川分館Aチーム



優勝 氏乗分館Aチーム・Bチーム

広島平和のバス運行事業 参加者募集中!

今年度も『広島平和のバス運行事業』を8月5日(水)~6日(木)に実施します。

平和推進事業の一環として広島に赴き、広島平和記念式典への参加、原爆に関する施設の見学等を通じて、戦争の悲惨さや被爆の恐ろしさについて理解を深めてきたいと思えます。

参加を希望される方は、チラシをご覧ください。喬木村教育委員会までお申し込みください。

折り鶴を募集しています!!

『広島平和のバス運行事業』で広島まで持って行く折り鶴を募集しています。

大変恐れ入りますが、5cm×5cmのサイズで作成をお願いします。平和への想いを折り鶴に託しましょう。

できた折り鶴は、お手数ですが教育委員会までお持ちください。

編集後記

今年もあちこちの田んぼに水がはられ、半年後の収穫に向けた稲作が始まった。夜にはカエルの大合唱を聴く。古きより受け継いできた田園の風景が今も守られている。

先日、田畑に立つ父母の背中はどうも年々老いて見えた。仕事の関係で喬木を離れて住むようになり、家のほとんどを父母に任せ、やってきたこの何年かを思うと、本当に感謝の言葉しか見つからない。

地元に戻ることにした今、地域にご恩返しができるような新たな歩みを始めたい。